



集団検診を受けて

留萌支部長 **近江谷 尚 紀**

今年も、例年通り集団検診を実施しました。そこでこの検診に携わるようになった時に自分なりに調べた、検診の心構えと必要性について、お話ししたいと思います。

まず、検診の必要性と言うのは、自分の健康を守るために、症状の出ない病の早期発見や自身の体からのSOSに耳を傾ける。と言う物でした。そのためには心構えとして以下の6箇条があるそうです。

検診の心構え

1. 毎年欠かさずに検診を受ける。
2. 検診結果には必ず目を通し、保存する。
3. 結果に関してはきちんと受け止め、悪い点に対しては、改善するための目標を立てる。
4. 検査項目等で不明な点は検診を受けた医療機関に質問や相談をする。
5. 再検査や精密検査を恐れず、面倒がらずに必ず受ける。
6. 「異常なし」に過信せずに日頃から体のCheckを行う。

と言う物でした。

と言う私も今回の検診で要精密検査の項目があり、内心ビクビクして検査しましたが、結果は「経過観察していきましょう。」という事でほっと胸をなでおろしました。皆さん、思っているより我々は体を酷使しているようです。検診を毎年受けるようにしませんか？



旅

美唄支部長 **工 藤 泰 裕**

ピーター・フォンダとデニス・ホッパーがオートバイを駆る。主題歌はステッペン・ウルフ「Born to be wild」。1970年に公開された映画「イージーライダー」です。テレビ放映はそれよりずっと後でした。中学生だった私には、映画のテーマや時代背景など理解できません。ただただ、オートバイがカッコよく、旅に憧れたものです。

北海道を舞台にしたロードムービー「幸せの黄色いハンカチ」が1977年に公開された時もまた、旅への憧れを強くしました。当時、北海道にはカニ族やミツバチ族と呼ばれる人たちが多く訪れており、少年の気持ちは羨望でいっぱいになりました。

現在、中年と呼ばれる年齢に達し、その旅を実現しています。私の旅のスタイルは、一人・オートバイ・最小限の荷物・野宿（テント泊）です。体を風と振動にあずけ、一日中オートバイを駆っていると、少年の頃夢みた旅人になった気分です。終日の雨、濃霧の知床峠、寒い日、暑い日、オートバイの旅は実に楽しいものです。1,000km先の野営地での酒の味は格別です。天幕にもぐり込み翌朝また走る、走る。私の旅はまだ続きます。

